



103歳 大西義夫さん 市内男性最高齢をお祝い

敬老の日を前にした9月2日、昨年引き続き市内男性最高齢者となる大西義夫さん（上柏町）をお祝うため、大西さんが利用している短期入所生活介護事業所・三島の杜（上柏町）を大西市長と眞鍋議長が訪問しました。

大西さんは大正11年生まれの103歳。好物のステーキを食べに家族と出掛けるなど、日々を元気に過ごされています。

また、女性最高齢者の伊藤ヒサ子さん（106歳・金生町下分）にも、お祝い状などが贈られました。



大西義夫さん（上柏町）

大正11年（1922年）生まれ
103歳

長生きの秘訣は
時折楽しむ熱燗



平成25年4月から3期12年にわたり四国中央市長を務めた篠原実前市長が、長年にわたる港湾の振興発展への功績が認められ、「四国地方整備局港湾・空港関係功労者表彰」を受賞しました。

8月18日、川之江ふれあい交流センターで伝達式が執り行われ、前田松山港湾・空港整備事務所長より表彰状が手渡されました。



祝 港湾の発展に貢献 篠原前市長が四国地方整備局長表彰

篠原前市長は、三島川之江金子地区国際物流ターミナルの整備に力を注ぎ、平成27年に上屋の整備、令和3年にガントリークレーンの整備に取り組みなど、三島川之江の発展に大きく貢献されました。また、県地方港湾審議会委員や四国港湾協議会副会長を歴任されるなど、四国管内の港湾の整備促進、振興にも貢献されました。



8月17日、大分県臼杵市の西岡隆市長らが本市を訪れ、両市が抱える課題や地域の取り組みについて意見を交わしました。

意見交換では、地域産業の振興やブランド化、地域産業を活用した観光振興、学校規模の最適化や小中一貫教育など、産業・観光・教育の各分野をテーマに、それぞれの取り組みや課題を共有し



臼杵市長らが来訪 まちづくりについて意見交換

ました。また、本市から書道パフォーマンス甲子園や霧の森などの取り組みを紹介し、地域資源を生かした交流人口の拡大についても意見が交わされました。

翌18日には、西岡市長らが市内の紙産業施設などを視察。多羅富来和紙では、伝統的な手漉き和紙の製造工程などについて説明を受け、紙づくりの現場に触れました。





給食米 金色の実り 児童らが鎌を手に収穫の喜び

8月22日、土居町蕪崎の田んぼで学校給食米収穫祭が開催され、小学生ら約260人が参加しました。

参加者は、実りを迎えた学校給食米「うまそだち」を鎌で丁寧に収穫しました。稲刈りの後には、おにぎりパーティーが行われ、収穫の喜びを参加者全員で分かち合いました。



夏の高原を楽しむ 翠波高原でコスモスまつりが開催

8月16日、金砂町平野山の翠波高原で、「コスモスまつり」が開催されました。今年は三分咲きでの開催でしたが、訪れた人たちは咲き始めたコスモスを眺めながら園内を散策し、高原の景色を楽しみました。

会場ではフラダンスや大道芸、紙相撲なども行われ、多彩な催しが会場を彩りました。



市民618人が参加 夏の恒例行事 全国巡回ラジオ体操

8月24日、伊予三島運動公園で「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が開催され、618人が参加しました。この体操会は、昭和28年から夏の恒例行事として全国各地を巡回しており、今年は全国35会場で開催されました。

参加者は、早朝の爽やかな空気の中、心地よい汗を流しました。



嶺南の夏を満喫 てらの・金砂湖畔広場 夏の感謝祭

8月23日、金砂町平野山の金砂湖畔公園で「夏の感謝祭」が開催され、多くの人でにぎわいました。

会場では、恒例のアメゴの掴み取りを始め、今年初開催のSUP体験や地域を巡るレンタサイクル、地元食材を生かした飲食ブースなど、多彩な催しが来場者を楽しませました。



受け継がれる伝統の舞 大西神社で鐘踊りを奉納

8月30日、新宮町上山の大西神社で県指定無形民俗文化財「鐘踊り」が行われました。

鮮やかな衣装をまとった踊り手たちは、太鼓と鉦の響きに合わせ、力強く舞い、江戸時代から受け継がれてきた伝統の踊りを奉納しました。地域で守り継がれてきた鐘踊りが、今年も訪れた見物客を魅了しました。



三島東中学校がU-15の部で優勝 SMART四国ロボットチャレンジ

8月29日、自律移動型ロボットの性能を競う大会が三島東中学校で開催され、U-15の部で同校のチームEAST WINDが優勝を果たしました。

大会では、教育用資材を使って生徒自らがロボットを製作。プログラミングしたロボットを走行させ、試行錯誤しながら課題解決への学びを深めました。



新居浜市女子ソフトボールチーム「愛媛NRC」に所属する渡邊仁子さん（土居中2年）が、8月に開催された「四国中学校総合体育大会」で優勝を果たし、8月21日から24日に掛けて開催された全国大会に出場しました。

渡邊さんは8月18日に市役所を訪れ、全国大会への決意を新たにしました。

祝 全国への決意を胸に
ソフトボール渡邊仁子さんが全国大会へ



マドンナジュニア愛媛に所属する本市の小・中学生が、8月に開催された「NPBガールズトーナメント2026全日本女子学童軟式野球大会」と「全日本中学女子軟式野球大会」に出場しました。

選手らは8月12日に市役所を訪れ、全国大会に向けた意気込みを語り、全国の舞台での活躍を誓いました。

祝 全国での活躍誓う
マドンナジュニア愛媛が全国大会へ



角川ドワンゴ学園S高校3年の福田照子さん（川之江北中卒・写真中央）が、8月に東京都で開催された「全国高等学校麻雀選手権大会」において優秀な成績を収めました。

福田さんは8月31日に市役所を訪れ、大西市長に大会結果を報告。「負けた悔しさを糧に、更に成長したい」と語りました。

祝 全国の舞台で実力を発揮
麻雀福田照子さんが全国大会で活躍



新居浜スマッシュに所属する玉井大賀さん（土居中1年）が、8月に開催された「四国中学校総合体育大会」の男子団体戦で準優勝を果たし、8月20日から23日に掛けて開催された全国大会に出場しました。

玉井さんは8月18日に市役所を訪れ、全国大会へ向けた思いを語りました。

祝 全国への思い語る
バドミントン玉井大賀さんが全国大会へ



四国中央市のよさこいチーム「純信連」が、8月12日に高知県で開催された「よさこい全国大会」で、仲の良さや楽しさが評価される優秀賞「睦」を受賞しました。

純信連のメンバー3人は8月28日に市役所を訪れ、大西市長に受賞の喜びを報告するとともに、今後の抱負を語りました。

祝 仲間と揃った優秀賞
よさこい全国大会で純信連が受賞



7月に開催された「全国高等学校総合文化祭」に出場した三島高校3年の生徒6人が、9月1日に大西市長を表敬訪問し、大会への出場を報告しました。

写真右から、
加地ひなたさん（自然科学部）
谷井花后さん（自然科学部）
今村優花さん（自然科学部）
藤田実奈さん（書道部）
大西すみれさん（放送部）
武村彩加さん（放送部）

祝 自然科学部 書道部 放送部
三島高校が全国高総文祭に出場

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



受賞者（4者連名）
四国中央市、NTTインフラネット株式会社、株式会社福山コンサルタント、愛媛県流域水マネジメント強化プロジェクト分科会



9月10日、本市など4者による下水道DXの取り組みが、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞（アセットマネジメント部門）」を受賞しました。
複数のDX技術を組み合わせた点検調査や、現地見学会などを通じた技術の普及が評価されました。

祝 国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」 下水道DXの取り組みが評価



54回全国消防救助技術

8月22日に新潟県で開催された全国消防救助技術大会に、四国地区の代表として、河野消防副士長（写真右）と鈴木消防士（同左）が出場しました。
2人は、20分先の要救助者を安全に救助する「溺者搬送」に出場し、見事入賞。この大会で培った経験や救助技術は、今後の現場活動に生かされます。

祝 河野消防副士長と鈴木消防士が 全国消防救助技術大会で入賞



波を捉え、湖面を駆ける ウェイイクシリーズ法皇湖大会

富郷町津根山の法皇湖（てらの湖畔広場）で、8月21日から23日に掛けてウェイイクボードやウェイイクサーフィンの全国大会「ウェイイクシリーズ法皇湖大会」が開催されました。
選手たちは、ボードが生み出す波を巧みに捉え、水面を鮮やかに滑走しながら、多彩な技を次々と披露しました。



県支援チームの一員として 被災地に向け市職員が出発

8月27日、熊本地震の被災地支援に当たる市職員の出発式が市役所で行われました。職員は、県被災地支援連携チームの一員として熊本県八代郡氷川町へ向かいました。
8月28日から順次交代しながら、避難所運営や健康管理支援など、現地の状況に応じた支援に当たっています。



愛媛大学紙産業イノベーションセンター オンキャンパス 紙のまちの学びを体感

9月12日、妻鳥町の愛媛大学紙産業イノベーションセンターでオンキャンパス説明会が行われました。
参加者は、紙産業を専門的かつ実践的に学べる「紙産業コース」の特色などについて説明を受けたほか、実験室を見学。実際の教育環境に触れながら、紙のまちならではの学びを体感しました。



法皇青年会議所創立30周年記念事業 学生と地元企業をつなぐ「企業発見ライブ」

8月22日、公益社団法人法皇青年会議所が、伊予三島運動公園体育館で「企業発見ライブ」を開催しました。
会場には市内企業30社が集まり、高校生や大学生らが企業担当者と交流しました。学生らは、仕事内容や働く魅力について直接話を聞き、本市にある多様な企業を知るきっかけとなりました。



8月22日、中之庄公民館で、中高生が手掛けたおばけ屋敷が開催され、地域住民ら約300人が訪れました。

新型コロナウイルスの影響で途絶えていた地域の夏行事を復活させようと、市内の中高生25人が企画・運営に参加。当日は、趣向を凝らした仕掛けに驚く来場者の悲鳴が館内に響き渡りました。また、縁日も開かれ、多くの来場者が夏のひとときを楽しみました。

ちよつとそこまで 広報 SAMPO

中高生の力で
夏行事が復活！
中之庄公民館が
おばけ屋敷に



現地での活動を通じ、普段何気なく使う紙製品が、災害時には生活や衛生を支える大切な物資になると実感しました。また、被災地のニーズを把握し、必要な物を確実に届けるための連携や支援物資を受け入れる体制の重要性も学びました。

今回の経験を今後の災害対応に生かすとともに、被災地の一日も早い復興を心より願います。

支援をつなぐ連携の大切さ

人事課 森本

支援物資

支援期間

令和8年8月7日～9日

活動内容

市内企業からご提供いただいた紙製品などの支援物資を、公用車で八代郡氷川町の避難所へ届けました。

派遣職員

人事課 森本
経営戦略課 西原

令和8年熊本地震

被災地支援の現場から

被災地で支援に携わった職員たち。それぞれの活動を通して見えた被災地の状況や、現地を感じた思いを伝えます。

行革甲子園にて

行革甲子園は、中村時広愛媛県知事の肝煎りで始まり、会場看板やチラシ、パンフレットなどの題字には、当時の三島高校書道部が揮毫した文字を使ってくれている。当初は県内大会であったものが、隔年開催で平成28年から全国大会として愛媛県が全国の市区町村に呼び掛けて開いている。

各自自治体が、官民共創など創意工夫あふれる行政改革の取り組みを発表し、中村知事をはじめとする5人の審査員が採点して、優秀な団体を表彰している。今回が6回目の全国大会で、79の団体から89の先進事例が寄せられ、書類審査で選考された6団体が会場の松山市民会館でプレゼンテーションを行った。今や、ユーチューブでのライブ配信もしている。

第1回の行革甲子園は、平成24年度の開催で、折しも小職は行政改革推進係長であった。残念ながら甲子園出場は果たせず、当時は、普段あまり交流の無かった南予の自治体の元氣なプレゼンに圧倒されたことを記憶している。

市役所の仕事では、先進自治体の意欲的な取り組みから刺激を受け、自らの行動変容や組織内イノベーションへのチャレンジに繋げることが大切になりたい。今回大会のグランプリには、「事務処理特例制度でルールを変えよう！失敗もひとつの成果、まずはやってみよう」という熊本県山鹿市の業務改善が輝いた。同じ立場の職員のプレゼン手法や仕事に対する意気込みに触れることのできる貴重な機会として、この大会の継続開催は有難いと思っている。

審査委員長は、元総務省自治財政局長で、一般財団法人地域活性化センター特別顧問の椎川忍氏。小職がかつて薫陶を受けた方で、今も東京の地域活性化センターに本市の若手職員を派遣している。「行政だけでできる改革は、ほぼ尽くされている。残されるは、外部の人材と知恵である」という椎川委員長の話に、10年ぶりに「共感コメントター」の役割で参加した行革甲子園で、またしても大いなる勇気をいただいた。

逆風 満帆！

四国中央市長
大西賢治

